

音楽科学習指導案

【日 時】 令和元年10月11日（金）3校時

【場 所】 音楽室

【学部・学年】 小学部 6年1組

【生徒数】 男子1名、 計 1名

【指導者】 教諭：神原 幸男

1. 単元・題材名

「歌・楽器・手を使って音楽を楽しもう」

2. 単元・題材設定の理由

(1) 児童観

本児童は筋ジストロフィー及び自閉症スペクトラムを併せ有し、身体の動きについては補助電動車いすを使用している。平成29年10月に行ったWISC-IVの検査では6歳程度の発達段階だった。短期記憶に落ち込みが見られるが、児童は手先が器用で書字や絵を描くこと、はさみや筆を使うなどの細かい作業や活動を得意とする。学習開始時に、前時の振り返りで単元内容を確認し、言語理解などの強みを生かすことで、少しずつ学習内容が定着してきている。音楽の授業では、器楽で演奏したり、体を動かしたりする学習に興味・関心が高い。曲に合わせて演奏する学習では、児童の考えたリズムで自由に演奏を促すと積極的に楽器を鳴らす様子が見られ、練習を重ねる毎に器楽の習熟度レベルも高くなっている。日常のコミュニケーションは、生活年齢相応に近い言語理解力はあるが、慣れない人に自分から関わることが難しい場面や、大勢の前で発表する場面で恥ずかしさや緊張・照れが見られる。興味のある話題であれば初対面でもある程度やりとりすることができるが、自分に自信をもつことがコミュニケーション能力を高める要素と考える。また、児童には衝動性も見られ、授業中や休み時間に思いついたことや興味のある物事に対して行動が抑えられず授業に集中できないことや、休み時間から授業に移ることができない場面がある。約束事を決めてから活動を進めることで教師と一緒に振り返り、気持ちを切り替えながら進めることができている。興味・関心を引くものや、達成感を味わうことができる内容を設定し、意欲的に活動に取り組めるよう学習内容を設定する必要がある。

(2) 教材観

歌の取り組み以外にも、能動的に活動に取り組めるように学習を進めていきたい。器楽では児童が前籍校の時に取り組んだことのある「よさこいソーラン節」を、歌や器楽で行うことで親しみを覚えることや意欲を養うことにつながると考える。手話表現では、地域交流で行った活動をきっかけに歌うことや器楽演奏以外にも、音楽を通して人前で発表したり表現したりできる自信や意欲を引き出すことができると考える。特別支援学校学習指導要領総則編小学部音楽科の第2段階（3）「打楽器などを使ってリズム遊びや簡単な合奏をする」及び第3段階（4）「やさしい歌を伴奏に合わせてながら、教師や友達などと一緒に歌ったり一人で歌ったりする」をねらいとして学習をすすめていきたい。

(3) 指導観

間違いを怖がらず楽しく取り組めるように音の抑揚をつけることや太鼓のリズム打ち、手話の表現などの練習で難しい場面がある場合は、分かりやすくアドバイスすることやできたときの賞賛、歌をゆっくり歌いながら指導するなど、習得への意欲を高めたい。道徳的観点では音楽の教科として「音楽を愛好する心情や感性を育む」や「音楽に親しむ態度や情操」を養いたい。気持ちを高めながら歌唱できるように盛り上げるなど、児童が楽しく取り組めるよう環境に配慮しながら指導し、楽器や歌の抑揚・強弱の工夫により達成感が味わえるような指導をしていきたい。また児童の実態を踏まえて、学習の意欲や達成感につなげるために音楽室で行う授業の様子を、映像を通してプレイルームで見学できるように配慮していく。

3. 単元で目指す「できた」

本単元では、歌唱・器楽・手話表現の3要素を取り入れた学習内容になる。自分の頑張りを実感できるように、地域交流や保護者来校の際に授業の活動を通して練習の様子を見てもらったりミニ発表を行ったりする中で、段階毎に習熟度の高さをその都度、理解させて達成感につなげていく。

4. 単元がつながる児童の将来像

今回は歌唱・器楽演奏の他に手話表現を用いて学習を行う。余暇や諸活動の中で歌・器楽・手話などを通じて人との交流をもち、楽しく有意義に生活できることにつながるのではないかと考える。

5. 教科及び単元・題材における児童・生徒の実態

児童・生徒 学年	病名／障害種	実 態
A 6 年	・デュシャンヌ型 筋ジストロフィー ・自閉症スペクトラム	○歌唱 ・特徴的な曲のリズムや表現に気付き、興味をもつことができる。 ・ふりがなをふった歌詞を見ながら歌を歌うことができる。 ・音楽に合わせて、教師と一緒に歌うことができる。 ・抑揚に気を付けながら、歌うことができる。 ・歌唱の練習をすると恥ずかしさや照れにより、歌えなくなる場面がある。 ○器楽・手話表現 ・触り慣れない楽器にも興味をもち、音を出して楽しむことができる。 ・楽器を弾くために反復練習をすることで、概ね弾くことができる。 ・歌に合わせて好きな楽器を用いてリズムカルに楽器をたたくことができる。 ・歌詞に合わせてリズム表を見ながら楽器をたたいたりすることができる。 ・好きな歌であれば、歌唱しながら楽器をたたくことができている。

6. 教科及び単元・題材における児童の目標

児童・学年	目 標
A 6 年	・曲のリズムや表現、歌詞の特徴に合わせて歌唱することができる。 ・曲に合わせて、リズムよく太鼓をたたくことができる。 ・曲に合わせて、手話表現することができる。

7. 指導計画（全 11 時間）

主な学習活動・内容	時数	備考
・曲の紹介・選定	2	
・曲の歌唱、器楽、手話	8	本時 9 / 11 時間目
・発表	1	

8. 本時の指導（9 / 11 時間）

(1) 本時の目標

- ・歌の拍や曲の特徴的なリズムに気付き、自ら歌い方を工夫して歌唱することができる。
- ・音の強弱やたたき方など、曲の特徴を理解してリズムよく太鼓をたたくことができる。
- ・曲に合わせて、手話表現することができる。

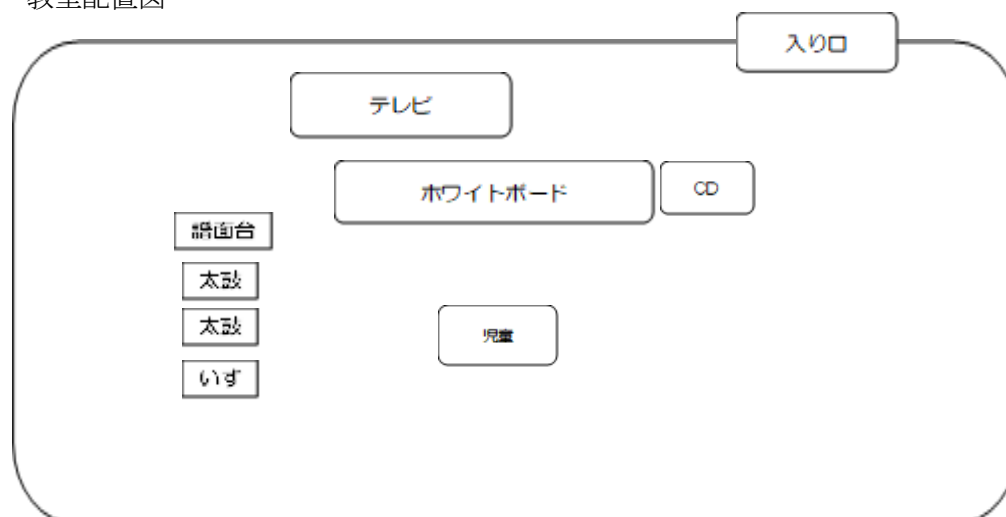
(2) 本時の展開

時程	学習内容	児童の活動	教師の働き掛け	指導上の留意点等
導入 5 分	挨拶 振り返り	○挨拶をする ○前時の学習内容を振り返る。 学習内容を想起する。 ○教師からの質問に答える。	○指名して一緒に挨拶をする ○前時の学習内容を確認する。 ・曲名 ・楽器名 ・歌に合わせた表現方法	※道徳（自分に関すること：9 礼儀） ○思い出すことに困難 さがあればヒントを 出して学習内容を想 起させる。
		単元 「歌、楽器、手を使って音楽を楽しもう」		
展開 3 5 分	本時の学習	ねらい：歌う・たたく・表現する		○ホワイトボードに歌詞 カードの用紙 ○前時同様に簡単に説明。 ※自立活動（3 人間関係の形成） ※道徳（自分に関すること：11 相互理 解・寛容）
	ソーラン節 歌	○本時の学習内容を確認する。 ○ソーラン節の歴史や歌詞の 意味など、前時の内容と合わ せて質問に答える。 ○ソーラン節（歌）について工 夫する点を確認する。 ○曲に合わせて歌唱する。 ○アドバイスを受けて抑揚の 音調を意識して歌唱する。	○概要説明をする。 ・「ソーラン節」 ○ソーラン節について質問 ・歴史 ・歌の意味 ・はやし言葉 ○工夫する点を確認する。 ・盛り上がり部分 ・抑揚を付ける部分 ○音楽をかけて練習する。 ・抑揚の工夫 ・発音の工夫を指導する。	○盛り上がり部分に印を 付けて示す。 ○印を付けた抑揚部分を 教師が声で聞かせる。 ○曲をかける。歌唱は2 度 行う。 ※自立活動（4 環境把握）

資料 10

まとめ 5分	器楽	○ソーラン節の演奏方法について確認し、練習する。 ○アドバイスを受け、腕を大きく振り曲に合わせて太鼓をたたく。	○演奏方法を確認する。 ・歌詞表に書かれた印の見方について面・縁の説明をする。 ・1度目はスピードを遅くする ・アカペラで歌い、一緒にたたきながら指導する。 ・太鼓のたたき方法について ・2度目、曲をかけながら児童と一緒にたたいて練習・指導する。	○曲の中で難しい場面があった時は、スピードを遅くして歌い、たたきやすく配慮する。 ※自立活動（4環境把握） ○器楽練習は2度行い、たたき方や工夫についてアドバイスする。
	ビリーブ 歌	○ビリーブについて歌詞の意味など、前時の内容と合わせて確認する。 ○教師からの質問に答える。 ○頭文字や盛り上がりを確認して歌唱する。	○ビリーブについての説明「ビリーブ」 ・歌の意味 ・手話表現 ○工夫する点を確認し音楽をかけて歌唱する。 ・各頭文字を大きく ・盛り上がり部分を大きく	○ホワイトボードに歌詞カードの用紙。 ※自立活動（4環境把握） ○曲をかける。歌唱は2度行い、抑揚や言葉の発音についてアドバイスする。 ○印を付けた部分を大きく歌えるように指導する。
	手話	○ビリーブ（手話）について正確な動きを確認し、練習する。 ○アドバイスを受けて、再度曲に合わせ大きく手話表現する。	○手話の表現方法について ・盛り上がり部分の表現を強調 ・1度目は口で歌いながら行う。 ・手話の正確な動き ・2度目は曲に合わせて行う。 ・大きく表現すること。	○手話練習は2度行い、表現方法や工夫についてアドバイスする。 ※自立活動（5身体の動き）
まとめ 5分	まとめ 振り返り 挨拶	○本時の学習を振り返る ○教師からの質問に答える。 ○本時の授業を振り返り、発表に向けて、課題や注意点を考える。 ○次週の授業内容を確認する。 ○挨拶をする。	○本時の学習についての説明。 ・頑張った点の確認 ○発表へ向けての自信と意欲をもたせる。 ○次週の説明をする。 ○指名して、一緒に挨拶する。	○学習の中で頑張った点を引き出し、次回の意欲につなげる。 ※道徳（自分に関すること：9礼儀）

(3) 教室配置図



(4) 本時の評価

① 児童の評価

- ・歌の抑揚に気付き、自ら歌を工夫して歌唱することができたか。
- ・楽器の特徴を理解して大きな音でリズムよく太鼓を叩くことができたか。
- ・曲に合わせて、手話表現することができたか。

② 教師側の指導上の評価

- ・説明や指示・支援は適切だったか。
- ・音楽への関心や、授業への意欲をもたせることができたか。
- ・歌唱方法や器楽演奏・手話表現の仕方等、適切なアドバイスができたか。

9. 授業評価の観点 (参観者に評価してほしい観点)

「できた (達成感)・できる (自己効力感)」につながる指導・支援	児童生徒の将来像につながる授業	緊張や照れを改善させるための手立て (人間関係の形成)	単元の選定や教材の工夫